

自然を語る会報告

「鉄は魔法使い」第7章から最終章

2019年9月21日 10時～12時

飯田橋ボランティアセンター会議室 A

担当 勝山久美子さん

参加者 14名

8月は読書会がお休みだったため、目次で「鉄は魔法使い」の前半を思い出してから7章に入った。

7章の最初に金子美鈴さんの詩の紹介がある。それ以外にも随所に和歌などが出てくる。畠山さんは詩や聖書の聖句などに造詣が深いことが述べられた。「森は海の恋人」という言葉も、地元の歌人の熊谷龍子さんの歌から取られているが、社会活動にも文学の要素が大きくプラスになると話しあった。

鉄は海中とは違って土壌中には多くあるが、アルカリ性土壌では植物に吸収されにくいらしい。ところが大麦の根から出るムギネ酸は、鉄をやさしく包み込んで植物内に吸収させる役割を持っているそうだ。現在その効果を利用して生産量を上げる研究がなされているようだ。ただ、実際にはどのような研究がなされているかは書かれておらず、遺伝子組み換えなどの研究なのだろうか・・・という疑問が出た。

畠山さんは長年海の環境のために尽力をされてきたわけだが、その教えを受けた人たちが次世代の研究者として育ってきている、そのことが素晴らしいと感じた。

Sさんはこの本に出てくる山口県、京都の石清水八幡宮など本に出てくる場所に住んだことがあり、また「鎮守の森」という言葉を広めた宮脇昭さんと一緒に活動されていたとのことだった。Kさんはこの本に出てくる森先生をよくご存じだとか。本の内容が今まで以上に身近なものに思えてきた。とても読みやすく納得できる本であったということが皆で一致した感想だった。

10月5日には本の著者の畠山重篤氏をお迎えして、講演会を予定している。海と森、鉄の話など、どんな話を伺えるかとても楽しみだ。

(小川 記)